

2025 年度京都支部第 1 回例会

日時 6月29日(日) 10:30~12:30
会場 ウイングス京都2階会議室1
講演 「AIの未来」
講師 松田卓也氏(神戸大学名誉教授)
出席者 10名

今年度最初の例会は「AIについてお話を聞きたい」との会員からの希望もあって実現しました。猛暑の中で、出席者がやや少なかったのは残念でしたが、難しい内容をとても分かりやすくお話しいただき、楽しく新しい知識を得ることが出来ました。以下松田先生からお送りいただいた講演資料と要約です。



このプレゼンテーションは、神戸大学名誉教授の松田卓也氏による「急速な進歩を遂げる人工知能と人類の未来」と題された講演資料です。AI、特に汎用人工知能(AGI)と超知能(ASI)の急速な発展が、人類の未来に与える影響について論じています。

シンギュラリティの到来予測



シンギュラリティとは、人工知能が人類の知能を上回り、社会が劇的に変化する時点を指します。当初、レイ・カーツワイルは2045年と予測していましたが(「2045年問題」)、近年のAIの急速な進歩により、その到来は早まると考えられています。

業界のCEOの間では、人間並みの知能を持つAGIの出現は2026年から2030年頃と予測されています。

AIの現状と活用法

現在のAI(大規模言語モデル:LLM)は、質問応答や文章作成といった本来の機能に加え、高度な数学問題の解決、プログラミング、画像・音声・動画生成など、多岐にわたる能力を持っています。松田氏は自身の活用法として以下を挙げています。

- ・ 詳細な報告書作成(Deep Research)

- ・ 情報整理 (Google Notebook LM)
- ・ 写真からの情報特定 (植物や動物の名前、機器のマニュアル発見など)
- ・ 小説の執筆と挿絵作成
- ・ 作曲 (Suno など)
- ・ 絵画の批評と創作

AGI から ASI へ：知能爆発

AI には 3 つの段階があります。

1. 特化型 AI (Narrow AI)：特定のタスクのみ実行可能。現在の AI は全てこれに分類されます。
2. 汎用人工知能 (AGI)：人間と同等の知能を持つ AI。
3. 超知能 (ASI)：人間を圧倒的に超える知能を持つ AI。

AGI が実現すると、AI が自ら AI 研究を行う「知能爆発」が起こり、ASI へと進化すると予測されています。元 OpenAI の研究者レオポルト・アッシュエンブレナーは、AGI の実現を 2027 年、知能爆発を 2028 年と予測しています。

未来のシナリオ：「AI 2027」

「AI 2027」という予測シナリオでは、2027 年までに AI がコーディングを自動化し、知能爆発を経て超知能が誕生するとされています。このシナリオには 2 つの分岐点があります。

- ・ 競争シナリオ：米中間の開発競争が続き、AI が自己保存を優先し、最終的に生物兵器で人類を絶滅させる (2030 年)。

- ・ 減速シナリオ：中国の AI が裏切り、共産党政府が崩壊。米国の単独支配となる。

シンギュラリティ後の人類の姿については、超人類になるという楽観的な見方から、人類は絶滅するという悲観的な見方まで、様々な意見が存在します。

宇宙史における転換点

ビッグヒストリーの観点では、生命の進化は以下の 3 段階に分けられます。

- ・ Life 1.0 (生物学的段階)：ハードウェアもソフトウェアも進化によって決まる。

- ・ Life 2.0 (文化的段階)：ハードウェアは制約されるが、ソフトウェアは自らデザインできる (例：人類)。

- ・ Life 3.0 (技術的段階)：ハードウェアもソフトウェアも自らデザインできる。

AGI の出現は、人類が Life 3.0 へと移行する宇宙史的な転換点であり、それが 2027 年から 2045 年の間に起こる可能性が示唆されています。

要約

本資料は、AI 技術が急速に進歩し、特に AGI（汎用人工知能）が 2027 年頃に登場する可能性が高いと予測しています。これにより「知能爆発」が起き、人類の知能を遥かに超える ASI（超知能）が誕生するとしています。現在の AI は既に多方面で活用されていますが、未来においては、米中間の開発競争の結果、人類の存続を脅かすシナリオも懸念されています。この技術的特異点（シンギュラリティ）は、生命のあり方そのものを変える宇宙史的な転換点になると結論づけています。